

ビョルン・ミットメッサー

スウェーディッシュ・バグパイプ教則本

奏法の基本・装飾音・練習曲集



Björn Mittmesser

Die schwedische Säckpipa

<http://www.dudelsackseite.de/index.html>

日本語訳 藺田 徹
[バグパイプ工房 そのだ](#)

目次

はじめに	3
スウェーティッシュ・バグパイプ	
概要	4
構造	5
調と音域	7
運指	8
演奏技術の基本	
持ち方	10
音の区切り方	10
装飾技法	10
チューニング	11
吹き方	11
練習	
吹き方と演奏時の圧力	12
楽譜を使った練習	13
音の区切り方	15
装飾技法	17
トラブルシューティング	22
曲集	
初心者向け	23
上級者向け	26
付録	37

はじめに

スウェーディッシュ・バグパイプ(Säckpipa)が近年スウェーデン以外の国でも愛好されるようになって来たのは、とても喜ばしいことです。その一方で、この楽器の先生を身近に見つけるのは今もって難しく、同様にスウェーディッシュ・バグパイプを学ぶワークショップ等の機会も限られています。また、独習者がスウェーデン伝統音楽への入り口を見つけるのは、決して容易なことではありません。

こうした状況を考慮し、初心者の方がこの楽器を学ぶ助けとなるよう、ささやかな教則本を執筆することにしました。ここでは基本的な奏法を解説し、巻末の曲集では読者の皆さんがそれぞれの能力や好みに応じて練習出来るようにしてあります。スウェーデンの伝統音楽を聴いてみたいなら、Youtubeで「Säckpipa」の検索をかけてみて下さい。中でも Olle Gällmo 氏のアカウントがお勧めで、彼自身が演奏した初心者向けの曲を聴くことが出来ます。彼のホームページ: www.olle.gallmo.se では、その他にも色々な情報やビデオが載せられています。

個人的なことですが、私は音楽や楽器製作を職業としているわけではありません。これらはあくまでも私の趣味で、本書を通じてその楽しみを皆さんと分かち合うことが出来ればと願っています。

この場をお借りして、本書の執筆にご協力頂いた方々に御礼を申し上げます。スウェーディッシュ・バグパイプに関する豊富な情報と初心者向けの曲を提供して下さいました Olle Gällmo 氏、上級者向けの曲集をお寄せ下さった Helmut Eberl 氏、「トラブル・シューティング」他メンテナンスに関するアドバイスを頂いた Thomas Rezanka 氏、監修の Mick Loos 氏、そして運指表レイアウト担当の Rudolf Klapka 氏に、深く感謝致します。

2010 年 モスバッハにて



ビョルン・ミットメッサー / Björn Mittmesser



スウェーディッシュ・バグパイプ

概要

今日のスウェーディッシュ・バグパイプは、かつて存在していた楽器の復元作業と、更なる改良の産物です。これらはここ数十年の間に行われました。この点は運指についても同様で、これも昔から現在まで途切れることなく伝承されてきたわけではありません。

本書ではこうした事情を考慮し、最も一般的な E/A 管・ハーフクローズド運指のスウェーディッシュ・バグパイプを対象とすることにしました。

また、「伝統的」という言葉が様々な局面で使われますが、その際には上記の点も念頭に置いて下さい。

スウェーディッシュ・バグパイプでは、チャンターもドローンも、シングルリードで鳴らします。これは東欧のバグパイプに一般的な特徴で、中西欧のバグパイプでは少なくともチャンターにはダブルリードを使うのが普通です。スウェーディッシュ・バグパイプの主音はスケールの真ん中に位置しており、これも同じく東欧系バグパイプのみに見られる特徴です。ドローンの音は、中欧のバグパイプの多くが主音（オクターブは異なる）であるのに対し、オクターブ下の属音（五度音）に設定されています。こうした特徴から、スウェーディッシュ・バグパイプは明らかに東欧系バグパイプとして分類することが出来るでしょう。

伝統的に使われてきた葦のリードに加え、今日では木材・金属・プラスチックの鞘に葦・プラスチック（ポリスチロール）・カーボンで出来た舌を取り付けたリードもあります。リードの各素材に関する良し悪しについては、人によって意見が分かれるところですので、ここでは触れないことにします。

最終的にどの素材を使ったリードにするかは、各人が製作者と相談した上で、独自に判断するようにしましょう。

構造

ブローパイプと逆流防止弁



ドローン



chanter

正面



裏面



バッグ(ストック装着済)



リード



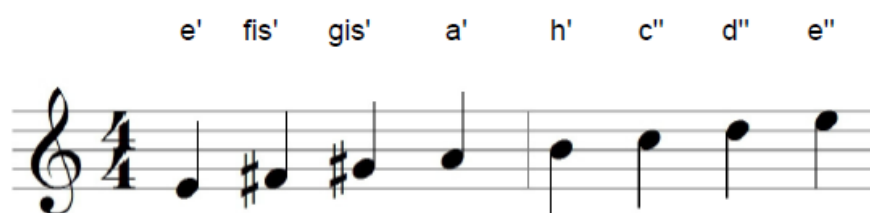
全体



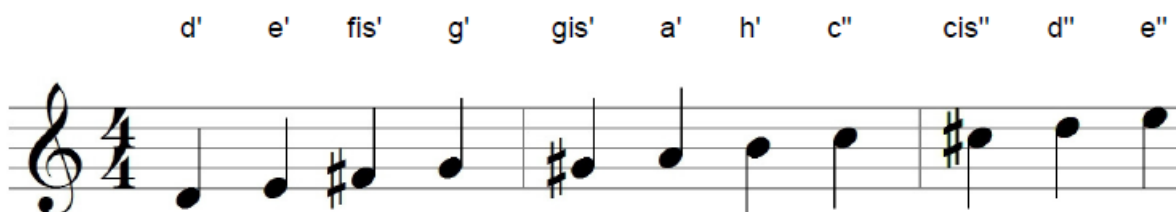
調と音域

一般的な E/A 管のスウェーディッシュ・バグパイプでは、主音 A はスケールの真ん中にあります。

昔の楽器の音域は e' から e'' で、下記のように音を配列したイ短調になっています。



現代の楽器では、多くの場合これに加えて d 又は d# (右手小指の指孔)、g (右手親指の指孔)、c# (c/c#の二重孔)を出すことができます。



ドローンの音は e' です (a' の下のオクターブにおける属音、従って下四度の音)。

運指

他の多くのバグパイプと同様に、指を伸ばした状態でチャンターを持ちます。少なくとも右手は指の中間部分で指孔を塞ぐとよいでしょう。左手は指の末節（但し指の先端ではない）で押さえても結構です。親指も同様に伸ばした状態にして、末節で指孔を閉じます。

この持ち方は、特に速いパッセージや様々な装飾技法に際し、指を滑らかに速く動かすのに役立ちます。

また、指孔をしっかり閉じることに注意しましょう。



スウェーディッシュ・バグパイプ E/A 管の運指表

● 閉じる ○ 開く ●○ 開閉は製作者により異なる。

訳者注: 著者がドイツ人のため、ドイツ式に b の音が h と表記されている。以下本文では、英米式に b の表記で統一する。

なお、上記運指は「ハーフクローズドフィンガリング」と呼ばれるものの一種。多少の違いはあるが、ハイランドパイプスやイリアンパイプスの他、フランスのコルナミューズやドイツのシェファープファイフェの運指も、この系統に属する。本書 14 ページ練習 5 を参照。

演奏技術の基本

持ち方

スウェーディッシュ・バグパイプは、ドローン管が胸の前にくるようにして、左腕でバッグを抱えます。左手はチャンターの上部、右手はチャンターの下部を持ちます。ブローパイプはバッグを四分の三ほど膨らませた状態で、口の前にくるようにしておきます。これは、（意識的であれ無意識的であれ）ブローパイプを口から離した際、またすぐに口にくわえることが出来るようにするためです。

また、リラックスしながらも、真っ直ぐな姿勢を保つようにしましょう。

音の区切り方

他のバグパイプと同様スウェーディッシュ・バグパイプでも、同じ音が二回続く場合、息を止めてこれを区切ることは容易ではありません。ドローンもチャンターも常に鳴り続けるからです。また、音と音の間に短い休止を入れることもできません。

しかし、こうした音の区切りをつける、少なくともそのように聞こえる効果を出すためには、特別な方法があります。これは、区切りたい音の間に、一つのはっきりした音として認識できないほどの、極めて短い別の音をはさむことで行います。この瞬間的な音が間に差し込まれることで、連続した同じ音が区切られます。詳しくは各練習項目で解説します。

装飾技法

連続する音を区切るために短い音を挿入する技術が生まれましたが、それとともに多くの装飾技法が編み出されました（これはバグパイプに限ったことではありませんが）。これらはメロディーを装飾すると共に、ある程度の強弱を付ける役割を果たします。

ここで皆さんは、バグパイプが持つもう一つの機能的制限と対峙することになります。演奏中の音の強弱調整は、ごくごく狭い範囲でしか出来ないのです。無理に強弱を付けようとすれば、音のふれが激しくなったり、音が出なくなります。

チューニング

まずバッグを左腕で抱え、膨らませます。演奏に適した空気圧を見つけるためには、最初はチャンターの主音をチューナーでチェックしながら行うのが簡単でしょう。

注意：

他の全てのドローン楽器と同様、バグパイプは純正に調律する楽器です。従って、一般的な（平均律の）チューナーで全ての音をチェックすることは出来ません。通常は、主音又は（主たる）ドローンの音だけを平均律音階から取り出し、チューナーで確認します。お持ちのバグパイプがどの調で作られているかは、製作者に尋ねましょう。

演奏に最適な圧力がわかってきたら、ドローン管の上部パーツをスライドさせて長さを伸縮し、チャンターで a' と e'' を出しながらドローンの音を調整します。どちらの音でも同じようにびたりと合うようにしなければなりません。低いほうの e' や d（又は d#）は、ワックスやゴムバンドで指孔を覆ってチューニングしなければならないこともあります。これは楽器の品質が悪いということではなく、他の東欧系バグパイプに一樣に見られる問題です。例えばボック系のバグパイプでは、大抵一番下の音にチューニング用のネジを取り付けて、音程を調整できるようになっています。

吹き方

楽に演奏するために最も大切なのが、息を吹き込むテクニックです。初心者の方の多くは、息を吹きこむことだけでバッグ内の空気圧を保とうと奮闘しますが、これでは苦しい思いをするばかりで、すぐに練習がいやになってしまいます。

スウェーディッシュ・バグパイプは、一般的に比較的少ない空気と圧力で演奏できます。楽器自体に問題が無ければ、何秒間かは口から空気を吹き込むことなく演奏を続けられます。

バッグを膨らませたら左腕でこれを軽く締め付けて、演奏に必要な圧力を作り出します。深呼吸一回分くらいの空気をバッグから送り出した後、新たに空気を吹き込みます。ここでは、左腕で締め付ける力を緩めてやり、ゆっくりと途切れることなく、空気を吹き入れます。バッグが空気で十分に膨らんだら、再び左腕で締め付けて圧力を加えます。そして必要になれば、また息を吹き込みます。最初のうちは、ここで音がぶれてなかなか安定しないものです。しかしこれは初心者にとってはごく当たり前のことです。全く気にすることはありません。これを改善するためには、練習あるのみです。しばらくすれば体が覚えて、ほとんど無意識のうちに出来るようになるでしょう。

練習

まず曲を演奏してみたいと思っても、正しい吹き方と圧力を保つための練習は欠かせません。そうすることで初めて、リラックスして息切れすることなく曲の演奏ができるようになるのです。

吹き方と演奏時の圧力

練習 1

a'の音が出るように Chanter を持ち、音ができるだけぶれないように、10 秒間鳴らし続けてみましょう。ここで、自分の呼吸に注意を払います。

この時間を少しずつ長くして、数分間鳴らせるようにします。

これを自分で録音してみると、きちんと出来ているかどうかがよくわかります。自分の録音を注意深く聞いてみましょう。

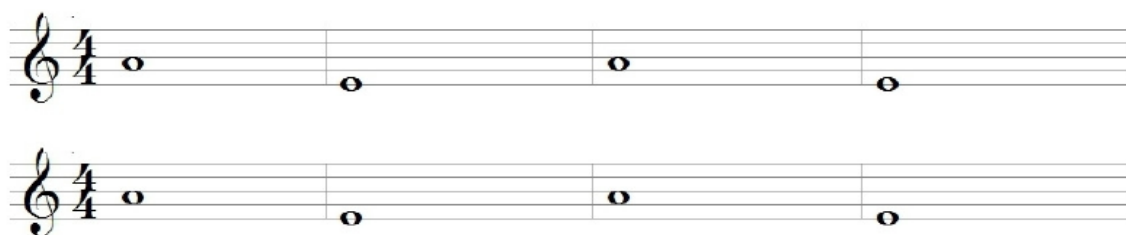
吹き方と圧力の調整がある程度出来るようになったら、次の練習に進みましょう。そこでも、圧力を一定に保つ練習を心がけます。

吹き方と共に、音がきちんと安定して出るように気をつけます。運指に対応した音がきれいに鳴り、それぞれの音の間に雑音が生じないようにします。

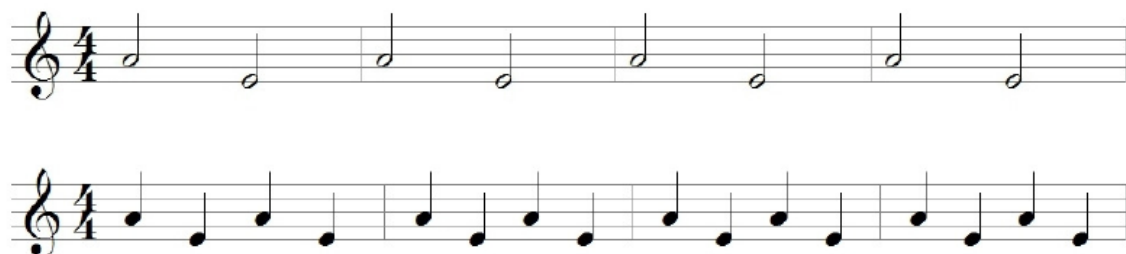
楽譜を使った練習

練習 2

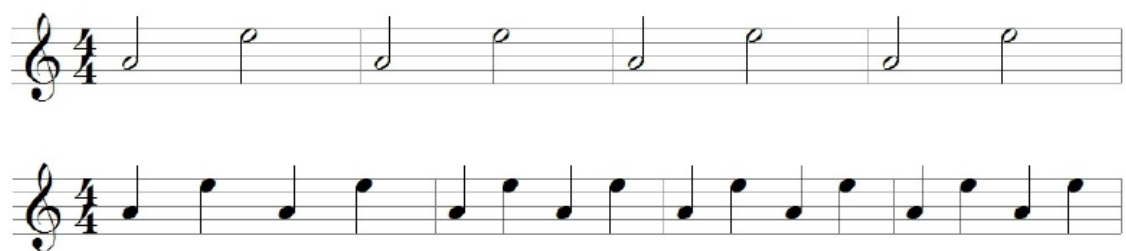
以下の三つの練習では、主音 a' と上下の e の音のみを出します。これらの音はドローン音と唸りの無いきれいな和音を作ります。



練習 3

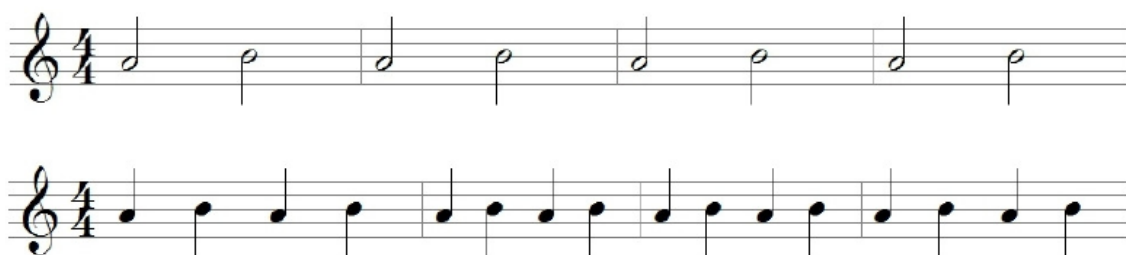


練習 4



練習 5

ここでは、ハーフクローズドフィンガリングとオープンフィンガリングで決定的に違う部分について、練習します。9 ページの運指表の a' の状態から、左手の最初の指孔(左手薬指に相当)を開け、間髪をいれずに小指を除く右手の指孔を全てすばやく閉じます。スウェーディッシュ・バグパイプの演奏では、a' と b' をまたぐ時にこの動作が必要になります。



練習 6

下から上へ音階を練習しましょう。



練習 7

上から下へ音階を練習しましょう。



音の区切り方

既に触れた通り、バグパイプでは同じ音を続けて二回演奏する際、息の流れを止めてこれを区切ることはできないので、特別な方法に頼ることになります。これには二つの方法があります。前打音として高い音を間に挟む「カット」、又は低い音を使う「タップ」という方法です。多くの場合、この短い前打音を出す時、運指表通りに（前打音の位置の）指孔を押さえるのではなく、簡略化した運指法を用います。すなわち、大抵は指一本だけを使って出すようにします。通常、「カット」を使うと「タップ」よりも音の切れが鋭くなります。

以下の練習では、音を区切る二つの方法についての例を見てみます。運指上の無理がなく、そしてメロディーの流れに沿ったものなら、どの音を使って音を区切るか、言い換えれば、どの指を使うかは、最終的に演奏者の裁量に任されます。

前打音は斜線の入った小さな八分音符で表します。



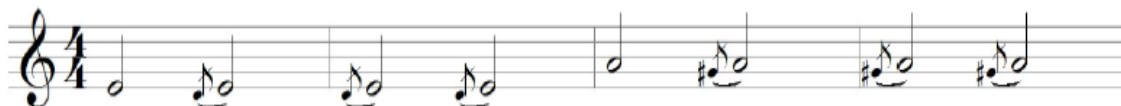
練習 8

この練習では、「カット」の二つの方法を練習します。大きな音符で書かれている音は運指表通りの指使いで出すようにし、小さな音符で書かれている「カット」の音は、右手又は左手の人差し指をほんの一瞬上げるだけで演奏します。



練習 9

この練習では、「タップ」の二つの方法を練習します。大きな音符で書かれている音のすぐ下の音を使います。大きな音符で書かれている音は運指表通りの指使いで出すようにし、小さな音符で書かれている「タップ」の音は、右手の小指又は右手の人差し指をほんの一瞬閉じるだけで演奏します。



練習 10

では、まずは簡単な曲から練習してみましょう。

上記で具体的に示した例の他にも、音を区切るいくつかのバリエーションを使って、どのように聴こえるかを試してみましょう。ここでも録音して聴いてみるとよいでしょう。

Långdans från Sollerön

Trad (Sollerön)

♩ = 120



装飾技法

上述のカットやタップの技術は、単に音を区切るだけでなく、好みに応じてメロディーを装飾するのにも使われます。またその他にもメロディーに飾りつけをする技法があります。そのうち一般的なものを以下で紹介します。繰り返しになりますが、普通は装飾が強制されることはなく、従って楽譜にも書かれていません。但し、以下の練習課題の中では、適宜記すようにします。

ビブラート:

ビブラートには、一つの音を生き生きと際立たせる効果があります。この際、音の高さが素早く微妙に変化します。スウェーディッシュ・バグパイプでビブラートを演奏するには、その音より下の音を繰り返し軽くたたくように出しますが、あまりせかせかせた感じにならないようにします。ここで指孔を一瞬完全に閉じてしまうかそうでないかは、ビブラートをかける音や、どのくらい強くかけるのかによって異なります。

ビブラートを一番簡単に演奏するには、指孔をふさぐ代わりに、指をやや突っ張り気味にして指孔の周囲のくぼみの右側又は左側の端を叩きます。どの指を使ってビブラートを奏するかは個人の自由で、きれいにビブラートがかかるのならどんな方法でも構いませんが、初めは以下のように練習してみましょう(但し、この方法によって全ての製作者の楽器で同様の効果を出せるとは限りません)。

A 或いはそれより高い音: 右手の人差し指を使う。

A より低い音: 演奏する音のすぐ下の音を使う。

もちろんこれらの方法は、チャンターの最低音では使えませんが、一つ方法があります。大抵の場合チャンターを細かく振って振動させることにより、十分なビブラートが出せます。

上級者向けテクニック:

もしも最低音の指孔の下にもう一つの孔(チューニングホール)がある場合は、座って演奏し、太腿の上にチャンターの底がつくようにしてこれを上げたり下げたりすることで、ビブラートの効果を出すことが出来ます。

チューニングホールが無い場合、太腿の上にチャンターを傾けて置くような形で上げ下げしてみましょう。ここで注意しなければならないのは、チャンターの下端を完全に閉じてしまわないようにすることです。そうしないと、音が止まってしまう。

練習 11

以下の音にビブラートをつけてみましょう。



練習 12

練習 10 で学んだ曲にビブラートをつけて演奏してみましょう。

Långdans från Sollerön

Trad (Sollerön)



スタッカート:

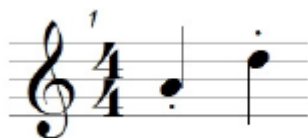
これはそれぞれの音を短く切る方法です。これは、例えばフルートなどでは、空気の流れを止めることによって行います。これによって、音が鳴っている長さは、本来音符が持つ長さよりも短くなります。

しかし、バグパイプでは空気の流れを遮断することが容易ではないので、別の方法を用いなければなりません。まず本来の音を出した直後、すぐさま低い e' に移ります。この音 e' はドローンの音と同じなので、あたかも元々の音が短く区切られているように感じるわけです。この低い e' で区切る方法によって音を次々と繰り返し出せば、その効果が一層明瞭にわかります。

上級者向けテクニック:

最低音の指孔の下にチューニングホールがないチャンターでは、座って演奏すれば、全ての指孔を閉じ、太腿の上に素早くチャンターの下端をくっつけて閉じると、本当のスタッカートで演奏することが出来ます。このテクニックには、チャンターを素早く閉じた後にすぐに音がでるような、適切なリードを使うことが必要です。

スタッカートは、音符の上又は下に点を付けることで表します。



練習 13



練習 14

Långdans från Sollerön

Trad (Sollerön)

♩ = 120



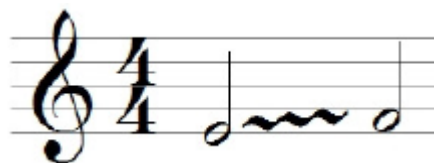
グリッサンド:

グリッサンドは、ある音から別の音へ、音の高さを流れるように途切れることなく変化させる技法です。クラシック音楽では、いくつもの音にまたがったグリッサンドが見られます。バグパイプの演奏では、大抵隣り合った二つの音をつなぐ技法として用いられます。

スウェーディッシュ・バグパイプでは、指孔を素早く開けるのではなく、上又は横に向かって指をゆっくりと滑らせながら開けていくことで、グリッサンドを演奏します。

これによって指孔が徐々に開いて音がどんどん高くなり、指孔が完全に開いた状態になると、最終的にその指孔本来の音が出ます。

グリッサンドは二音符間の波線で表します。



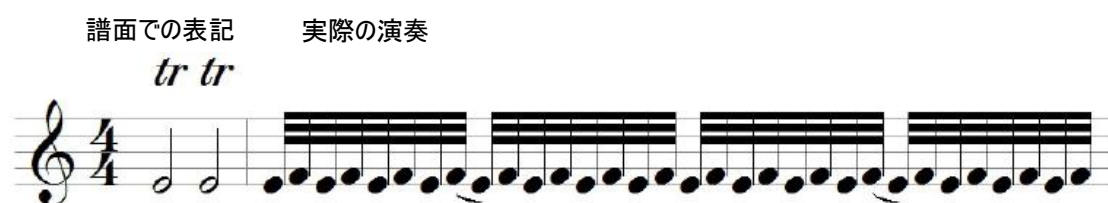
練習 15



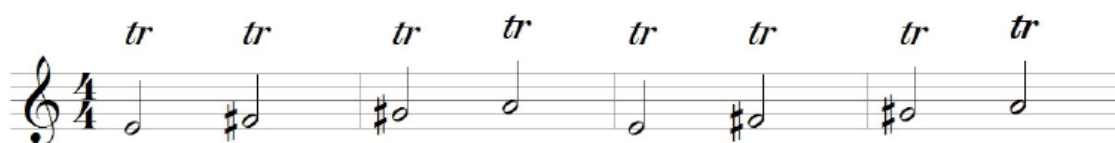
トリル:

トリルはある音とその上の音を、素早く交互に演奏するテクニックです。トリルを構成する各音符の長さの目安は、三十二分の一音符程度です。

トリルは音符の上の「tr」という記号で表します。



練習 16



トラブルシューティング

スウェーディッシュ・バグパイプがうまく鳴らない……そんな時は以下をご覧ください(この項はオーストリアのバグパイプ製作者 Thomas Rezanka 氏によるものです)。

むやみにリードに手を加えると、調子が悪いままになったり、悪くすれば使えなくなります。また、製作者に予め相談することなく、チャンターを不可逆的に加工してしまうことは控えましょう。

楽器やリードの加工は、自らの責任で行ってください。

トラブルの種類	解決方法の例
各音間のバランスは良いが、全体的に音が高過ぎたり低過ぎたりする場合。	高すぎる場合: リードの舌を重くすれば、音が低くなります。リードの舌の上にワックスを乗せるとよいでしょう。 低すぎる場合: もしワックスが乗せてあるのなら、これを取り除きます。これがなければ、リードの舌の先端部分を少し軽くします(訳者注: こまめに確認しながら紙やすり等で慎重に行いましょう)。
スケールの中ほどの音はちょうど良いが、高音部は音が高過ぎ、低音部は音が低過ぎる。又は高音部が低過ぎて、低音部が高過ぎる。	原因としてリードの舌と鞆の部分の開き具合の変化が考えられます。開き過ぎていればスケール内の各音間が狭くなり、閉じ過ぎていればその逆になります。開き過ぎていると高音域の音は、低くなります。
全体的には良くチューニングされているが、特定の音が高過ぎる。	ワックスを使って高過ぎる音を低くすることができます。問題の指孔に少しワックスを詰めてみます。ここで、ワックスは指孔の開きを小さくするだけで、チャンター内部のボア部分にワックスがはみ出さないようにしましょう。(訳者注: ワックスは、指孔の上部を塞ぐように詰めます。)
全体的にはよくチューニングされているが、特定の音が低過ぎる。	もし指孔にワックスが詰まっているのなら、これを取り除きます。ワックスが無ければ、まずチャンター内部ボアの内壁にごみやほこりがついていないかを確認し、必要なら内部をきれいにします。 チャンター内部がきれいで、他のリードを使ってもその音がまだ低い場合には、小さな丸棒やすりを使ってその指孔を上に向かって広げます。但しこれは最後の手段であり、十分な経験がある方のみが行ってください。また、楽器の製作者に予め相談しましょう。
変な音がしたり、演奏するのに多量の空気が必要。	リードの舌が厚過ぎることが考えられるので、舌の中ほどから根元にかけて、これを薄く削ぎます。また、演奏に多量の空気を要する場合、バッグが気密ではないことも考えられます。

訳者注: その他、スウェーディッシュ・バグパイプのメンテナンスでお困りのことがありましたら、訳者までご相談下さい。

(bagpipesonoda@mbr.nifty.com)

曲集

初心者向け

Långdans från Sollerön

Trad (Sollerön)



Visa från Venjan

Trad (Venjan)



Vals från Enviken

Trad (Enviken)



Steklåt från Särna

Trad (Särna)

♩ = 120

Three staves of music in 4/4 time. The first staff contains the first line of the melody. The second staff contains the second line, including a first ending (marked '1') and a second ending (marked '2'). The third staff contains the third line, also including first and second endings. The key signature has one sharp (F#), and the tempo is marked as 120 beats per minute.

Krigsvisa om danskarna

Trad (Dala-Järna)

♩ = 160

Three staves of music in 4/4 time. The first staff contains the first line of the melody, including first and second endings. The second staff contains the second line, including a first ending. The third staff contains the third line, including a second ending. The key signature has two sharps (F# and C#), and the tempo is marked as 160 beats per minute.

Säckpipslåt efter Jont Lars Olsson

Trad (Nås)

♩ = 120

Two staves of music in 3/4 time. The first staff contains the first line of the melody, including first and second endings. The second staff contains the second line, including first and second endings. The key signature has one sharp (F#), and the tempo is marked as 120 beats per minute.

Ljugaren

Trad (Rättvik)

♩ = 160



Jag blåste i min pipa

Trad (Dala-Floda)

♩ = 140



上級者向け

(イ長調・イ短調の曲を中心に)

Helmut Eberl 編纂 (2010 年 12 月 1 日)

helmut@hephy.oeaw.ac.at

www.hephy.oeaw.ac.at/helmut

本曲集の編纂にあたり、曲を提供して下さった Erik Ask-Upmark 氏、Stephan Steiner 氏、並びに Ralf Gehler 氏に心より御礼申し上げます。

また、スウェーディッシュ・バグパイプ教則本執筆に尽力された Björn Mittmesser 氏に感謝します。

では、曲をお楽しみ下さい！

©Helmut Eberl

Polskor

1. Polska efter Zakarias Jansson

trad., 2 x A, 2 x B



2. Barfotmannen

(CD – Faust)



3. Garnbindarnen II

efter Gustav Johannsson, Töftedal. Ur Einar Övergaard, nr. 64
(CD – Faust)

(play inegal)



4. Röros-pols



5. Polska efter Lars Åhs

trad. (Åhdalen, Dalama)



6. Polska efter Troskari Erik

trad. (Malung, Dalama)



7. Polska efter Nergårds-Lasse

(Björskötten's polska)



8. Gårdsbygubbarnas polska

Intro – Långdans

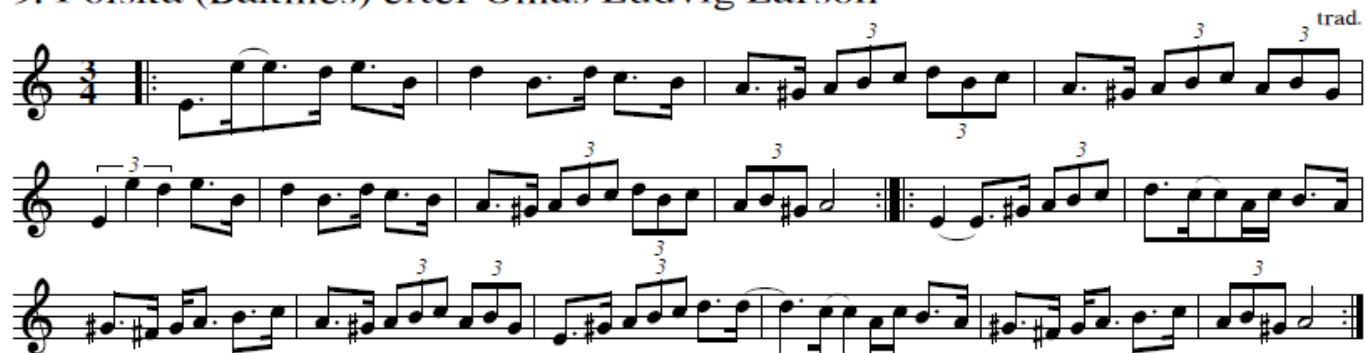
efter Daniel Danielsson (Dalsland)



Polska



9. Polska (Bakmes) efter Omas Ludvig Larson



10. Sempolska efter Åle Blom

Hälsingland



Slängpolskor

11. Slängpolska efter Pelle Petterson från Närke



12. Petter Duvas Slängpolska



13. Slängpolska efter Mats Wesslén



Schottisar

14. Vihtorin Jenkka



15. Schottis från Idre



16. Schottis från Haverö

Blowzabellica
(Säckpipa-Version H. Eberl)



17. Schottis från Lima

Dalarna



Långdansar

18. Långdans från Sollerön

Intro

Begin

trad. Schweden



19. När barnen mister mor och far



Brudmarschar

20. Brudmarsch från Dalby

trad. (Värmland)



21. Brudmarsch från Nössemark

(CD – Faust)

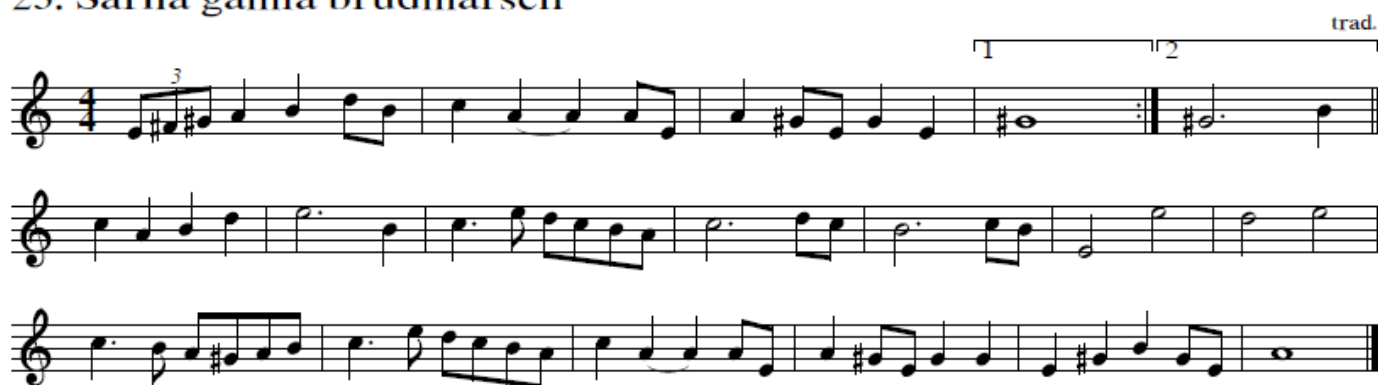


22. Garnbindarn I

efter Gustav Johannsson, Töftedal. Ur Övergaard, nr. 78
(CD – Faust)



23. Särna gamla brudmarsch



24. Brudmarsch från Äppelbo



Valsar Menuette

28. Menuet

2x, dann bis "end"

Rasmus Storms nodegog Nr. 4, 1760

29. Vindt Mølle Menuett

Rasmus Storms nodegog Nr. 30, 1760

Diverse

30. Uden titel

Rasmus Storms nodegog Nr. 39, 1760
(als Branle tanzbar)

31. Säckpiplåt efter Lars Olsson

trad. (Nås, Dalarna)



32. Spilå Jans Gånglåt

Älvdalen, Dalarna



33. Gånglåt

efter Skommar Far
(CD Per Gudmunson, Säckpipa)



34. Polsch

Rasmus Storm nodebog Nr.48



35. Marsch

Rasmus Storm nodebog Nr. 13

36. Hur var du i laftis saa sildig

Rasmus Storm nodebog Nr. 37

37. Säckpiplåt e. Carl Wahlström

Säckpipa version, E-Bordun

付録

スウェーディッシュ・バグパイプ製作者一覧

Mattias Branschke	www.dudelsackmanufaktur.de
Christian Dreier	www.dreiers-dudelsackbau.de
Andreas Rogge	www.uilleann-pipes.de
Toru Sonoda (蘭田 徹)	www.bagpipesonoda.eu
Friedrich Dokter	www.dudelsackbau.at
Thomas Rezanka	www.rezanka.at
Alban Faust	www.albanfaust.se
Börs Anders Öhman	www.borsljudet.com
Leif Eriksson	www.tongang.se
Magnus Högfeldt	www.hogfeldt.dk

著作権

本書の著作権は著者に帰属します。但し、初心者向け・上級者向け曲集部分の著作権は、それぞれ Olle Gällmo 氏(初心者向け)並びに Helmut Eberl 氏(上級者向け)が有します。

個人の使用、並びに指導及び講習会での使用目的で、本書を無料でダウンロードすることを許可します。対価を受け取る事を目的として、本書を電子的に又は印刷した状態で出版することを固く禁じます。

Title: Die schwedische Säckpipa - Ein Lehrbuch für den schwedischen Dudelsack

Written by: Björn Mittmesser

Schulshtraße 1, 74821 Mosbach, Germany

BjoernMittmesser@t-online.de

訳者: 蘭田 徹

バグパイプ工房そのだ(Dudelsackbau T. Sonoda)

bagpipesonoda@mbr.nifty.com

www.bagpipesonoda.eu